



談話に現れる「まあ」の機能(二〇一一年度卒業論文 要旨集)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 北海道教育大学国語国文学会・札幌 公開日: 2013-01-11 キーワード: 作成者: 福井, 安紗実 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00007403

談話に現れる「まあ」の機能

日本語学研究室 八四七六 福井安紗実

本研究の目的は、談話において頻繁に出現する「まあ」の機能を、出現しやすい環境に着目して明らかにすることである。

そのために、まずテレビ番組を文字化した談話資料を用いて「まあ」と共起しやすい語を調査し、次に共起しやすい語の用法などに基づき、「まあ」が現れやすい環境のタイプを分類した。

調査の結果、「まあ」は主に新規話題の導入、補足情報の導入、まよめの導入、例示の四つの環境に現れていた。四つの出現環境に共通するのは、話し手が聞き手との間で会話進行上の問題が生じないように配慮する環境だということである。新規話題、補足情報、まよめの導入の環境において話し手は、話の流れが唐突に変わることによって聞き手に違和感を与えないように配慮する。ここでの「まあ」の機能は、話の流れの変化により聞き手が感じるであろう唐突さを和らげることである。例示の環境では、話し手の提示する例が確定的なものと伝わることで、聞き手との間に認識のずれが生じるということがないように配慮している。ここでの「まあ」の機能は、提示した例や数量が、妥当性はあるが確定的とは言えない例だということを示すことである。

「まあ」は、話し手が聞き手に配慮するような環境に現われ、会話の進行を円滑にする役割を果たしていると考えられる。